

第十表 一家ヨリ二名以上ノ患者發生

計	戸數	百分比	昭和八年					一家中ヨリ二名以上ヲ出シタル戸數	計	同上人員	管內總患者數	總患者百ニ對スル二名以上ノ發生率
			同十二年	同十一年	同十年	同九年	同八年					
六・三四	九六	六・三四	三三	一四	一四	三六	二七	二七	六四	四〇	九・四	
一三・八五	一三	一三・八五	一九	元	四	三	四	三	三	四	一〇・五五	
三・四	七	三・四	九	六	六	九	七	七	三	三	一〇・〇〇	
〇・五	三	〇・五	(六・七名)ニ	(七名)	(七名)	(六名)	(一)	(一)	三	三	二・六九	
〇・五	六	〇・五	(六・七名)ニ	(七名)	(七名)	(六名)	(一)	(一)	三	三	二・六九	
一〇〇・〇〇	一・七	一〇〇・〇〇	一六	一八	二四	二七	三〇	三七	二六	二四	一〇〇・〇〇	
二・六九	二	二・六九	三	四	五	六	六	六	二	二	二・六九	
二四・九八	二	二四・九八	四	四	五	五	六	六	二	二	二四・九八	
一〇・五五	一	一〇・五五	九	九	一一	一一	一一	一一	一	一	一〇・五五	

第十一表 自轉發歸病期間

病床經過日數	全		治		者		死		亡		者		計	
	實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比
一日以上	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
二日	三	〇・一〇	三	〇・一〇	三	〇・一〇	三	〇・一〇	三	〇・一〇	三	〇・一〇	三	〇・一〇
三日	八	〇・二八	八	〇・二八	八	〇・二八	八	〇・二八	八	〇・二八	八	〇・二八	八	〇・二八
四日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
五日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
六日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
七日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
八日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
九日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
十日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
十一日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
十二日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
十三日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
十四日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
十五日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
十六日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
十七日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
十八日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
十九日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
二十日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
二十一日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
二十二日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
二十三日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
二十四日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
二十五日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
二十六日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
二十七日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
二十八日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
二十九日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
三十日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
三十一日	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六	二	〇・〇六
計	三・五六〇	一〇〇・〇〇	三・五六〇	一〇〇・〇〇	三・五六〇	一〇〇・〇〇	三・五六〇	一〇〇・〇〇	三・五六〇	一〇〇・〇〇	三・五六〇	一〇〇・〇〇	三・五六〇	一〇〇・〇〇

流行性腦脊髓膜炎、其他ノ流行狀況

## 第六節 流行性腦脊髓膜炎、發疹「チフス」

### 第一 流行性腦脊髓膜炎

本年管内ニ發生シタル流行性腦脊髓膜炎患者ハ百二十七名ニシテ、外ニ健康保菌者五十三名ヲ發見シ居レリ。

本病ハ幼兒ニ罹患者多キ傾アリ、性別ニ於テハ女性ニ比シ男性患者著明ニ多シ、又季節上ニ於テハ特有型ナキモノ、如シ。

本年ノ患者死亡率ハ五四・三三%ニシテ、最近五年平均ハ五七・六五%ナリ。



北多摩郡武藏野町居住ノ洋毛輸入商ノ家族女一名、一月二十四日發病シ杉並區所在私立太田病院ニ入院ス、右ハ同院ノ届出ニ依リテ檢診シ臨床的所見竝「ワイル、フェリックス」氏反應ヲ參照シテ二月二日之ヲ發疹「チフス」疑似症ニ決定シ必要ナル豫防措置ヲ施シタルガ、何等病毒ヲ散逸スルコトナク同患者ハ四月七日治癒轉歸セリ。

### 第七節 「コレラ」

八月末頃神戸、大阪及門司ノ海港檢疫ニ於テ香港、上海方面ヨリ來港ノ船舶ヨリ「コレラ」ヲ發見スルコト再三ニ及ビシガ、遂ニ病毒ハ廣島ヲ襲ヒ同市ニハ九月中下旬ニ亘リテ患者保菌者計四十三名、次デ山口縣徳山ニ十九名、又岡山縣邑久郡ニモ六名ノ發生ヲ見タルニ依リ別掲ノ如ク是等流行地トノ往來者或ハ水産物ノ移入等ニ就キ極力警戒ヲ加ヘタル處幸ニ病毒ノ侵入ハ受ケザリキ。

然ルニ、東京市王子區赤羽ニ居住スル東京帝國大學傳染病研究所囑託タル醫師男一、十月八日午前三時三十分發病シ、同六時三十分疑似症ニ、翌九日午前九時眞性「コレラ」ト決定シタリ、右ハ前記流行トハ全然關係無ク、傳染病研究所ニ於テ發病前日ノ午後七時迄「コレラワクチン」ノ製造ニ從事シ其ノ作業中ニ職務感染シタルモノニシテ、是ガ爲ニ本年一名ノ患者ヲ登錄シタル次第ナルモ、幸ニ急遽施シタル防疫措置ニ依リテ何等病毒ヲ散逸スルコトナク亦同患者ハ一時重篤ニ陥リシモ十月三十日治癒轉歸ヲ得タルハ至幸トスル所ナリ。

## 豫 防 施 設



## 第二章 豫防施設ノ概要

傳染病豫防上ノ施爲施設ヲ統制シ其ノ徹底ヲ期スル爲、一月四日發衛防第一號ヲ以テ先ヅ本年ノ施設事項ニ就キ方針ヲ指示シ之ヲ準繩トシテ夫々地方的事情ヲ參酌ノ上實施スルヤウ督勵ヲ加ヘタリ、本章ノ内容ハ右ニ基キ當部及各警察署ニ於テ實施シタル成績ヲ統合輯録シタルモノナリ。

本年ノ各種防疫施設ニ就テハ大體前年ノ實蹟ヲ踏襲シ特ニ都市衛生設備ノ充實、民衆ノ防疫自治訓練保菌者檢索ノ勵行、「ヂフテリア」及腸「チフス」豫防注射ノ勵行、定期種痘脫漏者ノ整理等ニ主力ヲ注ギ以テ帝都防疫ノ面目發揮ニ努メタリ、以下病類及施設項目別ニ其ノ成績ノ概要ヲ列舉スベシ。

### 第八節 赤痢及腸「チフス」(「バラチフス」ヲ含ム)ノ豫防

#### 一、豫防知識ノ普及啓發

抑々傳染病豫防ノ實ヲ舉グルニハ須ラク民衆ノ警戒心ヲ喚起シ、豫防ニ關スル知識ヲ教示涵養スルニアリ。當部ニ於テハ此ノ目的ノ爲夙ニ各種ノ手段方法ヲ講ジ來リシガ、本年モ印刷物、講演、亦映畫其ノ他ヲ利用シ非常ノ努力ヲ拂ヒ以テ之ガ目的ノ達成ヲ圖リタリ、又特ニ本年ハ赤痢其ノ他ノ傳染病多發ノ狀アルニ鑑ミ、東京府及東京市當局ト協議シ三廳聯合主催ノ下ニ管下各種衛生關係團體及小學校幼稚園等ヲモ參加セシメテ、七月十四日ヨリ一週間防疫強調週間ヲ催シ、其ノ第一日ニ

日比谷公會堂ニ大會ヲ開キ爾後各種ノ宣傳並捕鼠捕蠅及消毒清潔ニ關スル自治訓練ヲ行ハシメタリ。

蓋シ近年町會、衛生婦人會或ハ接客業組合等ノ團體ガ翕然トシテ防疫ノ實際運動ニ參加スルニ至リ夫々良好ノ成果ヲ收メツ、アルハ畢竟右施設ニ刺戟醸成サレタルニ外ナラズ。

(イ) 印刷物刊行

傳染病豫防ニ關スル知識ノ普及啓發ニ資シ豫防警戒心ヲ喚起スル目的ヲ以テ、本年刊行シタル印刷物左ノ如シ。

一、昭和十一年警視廳防疫年鑑

一千部

一、防疫講習會講本(甲種)

二千部

一、同 (乙種)

一萬五千部

一、赤痢疫痢内服豫防藥ニ關スル「ポスター」

一萬五千枚(五月三日配布)

一、赤痢豫防「ポスター」

一萬枚(五月三十一日配布)

一、「パンフレット」(今年の夏の赤痢豫防)

一萬部(六月一日配布)

一、「リーフレット」(赤痢豫防に就て料理飲食店に配布揭示)

四萬枚(同)

一、同 (赤痢發生患家に配布)

二萬枚(同)

一、「パンフレット」(「コレラ」の話)

一萬部(九月二十一日配布)

(ロ) 映 畫

優秀ナル宣傳映畫ハ諸種階級ヨリ成レル觀衆ニ豫防警戒乃至手當治療ニ關スル知見ヲ如實ニ會得セシムル意味ニ於テ頗ル有效ナリ、當部ニ於テハ年々此ノ目的ニ使用スル映畫ヲ製作シ現ニ左記種目ヲ所藏シ居リテ機宜ニ之ヲ利用シ來レルガ、特ニ本年ハ映寫機ヲ全部發聲式ニ改良シ、年中殆ド無休狀態ニ一班乃至三班ヲ出勤セシメテ時ニ講演ト相俟テ或ハ映寫會ノミヲ以テ大衆宣傳ヲ行ヘリ、其ノ施行回数別掲ノ如ク四百八十二回ノ多キニ及ベリ。

◎當部製作ノ防疫宣傳映畫

腸「チフス」豫防

毒矢を受けて	五卷	一、二二四米	大正十五年製作
道は二つに	五卷	一、〇六〇米	昭和二年製作
手の戯れ	四卷	一、〇一五米	同 三年製作
人の力	四卷	一、〇九二米	同 五年製作
山晴る	四卷	一、〇六〇米	同 五年製作
子守唄	四卷	一、〇五二米	同 八年製作

赤痢豫防

母ぞ知る	四卷	一、〇九一米	昭和四年製作
久遠の母性	四卷	九一六米	同 五年製作
女	五卷	一、二八一米	同 六年製作
街で拾った話	四卷	一、〇五〇米	同 八年製作
ふらんす人形	四卷	一、〇九四米	同 十年製作
二つの魂	四卷	一、一一〇米	同 十一年製作
赤痢保菌者を探す(發聲)	三卷	六八八米	同 十二年製作

尙「蠅の生活」(實寫)、「蠅の殺人及妖雲散じて」(共ニ腸「チフス」豫防)竝餘興映畫多數ヲ購入所藏シ居レリ。

(ハ) 展 覽 會

從來當部ニ於テ催フセル防疫展覽會ハ陳列品ノ順序體系ニ留意シ、一々懇切ナル説明ヲ加ヘ專ラ豫防上ノ事物教養ヲ目的トシタルモノニシテ常ニ良好ノ反響ヲ收メツ、アリシガ、概ネ管下ヲ一週シタル狀況ニアリ且經費難アルヲ以テ本年ハ特ニ懇請アリタル十二箇所ノ開催ニ止メタリ。

(ニ) 講 演

家庭ノ主婦、食物取扱業者、町會ノ有力者等ヲ對象トスル講習會ハ毎年行ヘル處ナルガ、此等

講習ヲ受ケタル者ニシテ其ノ町會、衛生組合等ノ指導ニ任ゼル有力幹部ニ對シテハ、更ニ多少ノ専門的知識ヲ涵養シオクヲ便トシ、此目的ノ爲ニ甲種講習ト稱シテ昭和九年以來特別講習會ヲ催シ居レルモ本年内ノ開催ハ四回ノミニシテ乙種講習會ハ四十回開催セリ。

普通防疫講演會ハ年中六百八十三回、活動寫眞應用講演會ハ二百五十七回ノ開催ヲ見タリ。

(ホ) 街 頭 講 演

以上ノ如ク諸種ノ手段ヲ以テ豫防知識ノ普及啓發ニ努メツ、アル結果關係各種團體ハ翕然トシテ防疫ノ實際運動ニ參加スルニ至リ、市民ノ衛生思想亦向上シテ、従前ニ於ケル傳染病發生ノ場合隠蔽或ハ隔離忌避等ノ弊風大ニ革マレリ、然ルニ大都市ノ複雑相トシテ市民ノ一部ニハ日夜勞務ニ追ハレテ餘裕無ク或ハ知識階級富裕階級者ノ中ニハ前述ノ如キ集會ニハ耳ヲ藉サル風アリテ小學校等ノ特定會場ニハ殆ド絶對的ニ參加セザル者モ少シトセズ、現今猖獗セル疫痢ノ如キハ斯ノ如キ家庭人ニ甚ダ多キ事實アルニ鑑ミ、此種ノ人士ニ對シテ豫防方法ヲ鼓吹スル必要ヲ認メ特ニ夏季間自動車ニ擴聲機ヲ裝置シテ夜間須要地ニ出動シテ街頭宣傳ヲ行フコト、セリ本年ノ此開催回数四十回(一地域ニ數回講演シ其ノ講演延回数百六十六回)聽衆十一萬五千八百人ニ及ベリ。

以上各種目ヲ合計スレバ本年當部ヨリ職員ヲ派遣シテ開催シタルモノ、ミニテ左表ノ如ク、千三百四十二回ニ亘リ實ニ百二十九萬七千餘人ノ大衆ニ對シテ呼號宣傳ヲ行ヒタル次第ナリ。



●防疫講習會、協議會、講演會、展覽會施行回数及參會人員表

一五〇

種目	昭和八年		昭和九年		昭和十年		昭和十一年		昭和十二年	
	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員
講習會	四	六、三三六	三	五、三七六	六	九、九六六	四	七、五九		
協議會	一〇六	三、九八九	一三三	一四、三三六	九七	三、三三四	八二	四、一三七		
講演會	四三	一〇五、四三三	六五	一六、八七五	四九	一四、三九二	六三	三、八〇三		
活動寫真應用講演會	三〇	一八七、二二六	三三	一九〇、八四八	三〇	一五、六六六	三三	三、八〇三		
活動寫真映寫會	三〇	三〇〇、六五四	三六	五〇、七八	三四	三九四、九三	三七	三五、一七〇		
街頭講演會	四	三、九四三			一	九〇〇				
展覽會	一〇日	九三、九〇八	三〇日	七、四〇〇	三日	一四、〇八六	四日	一四、二〇七	三日	三九、一〇九
計	一、一七七	七六、二九九	一、〇〇九	九九、六〇五	一、一三三	八七、四六一	一、〇四二	七九、四五六	一、三四三	一、二九七、二九九

備考 一、本表ハ防疫課ヨリ職員ヲ派遣シタルモノ、ミヲ掲上ス  
 二、本表外ニ防疫課ヨリ講師及活動寫真班ノ派遣ヲ請ハスシテ專ラ警察署區町村等ノ主催ニテ防疫宣傳會ヲ開催シタルモノ本年中ニ三百十八回聽講人員二十三萬九千六百餘人アリ  
 三、本表ニハ呼吸器系傳染病豫防ヲ目的トシテ開催シタルモノヲ含ム

二、檢病的調査

患者ノ早期發見、無届者摘發ノ爲ニ警察署ニ於テ夫々情況ニ應ジ檢病的戸口調査ヲ施行セリ、右ニ

依リ警察官吏ガ傳染病ノ疑ヲ懷キ報告ヲ爲セル注意患者ニ就キ防疫醫警察醫ガ檢診ノ上傳染病ト決定シタルモノハ赤痢百二名、腸「チフス」及「バラチフス」三十七名ニ及ベリ、蓋シ今猶巷間ニハ輕症其ノ他ノ理由ニ依リ傳染病ノ届出ヲ怠レルモノ若干アルコトヲ立證セリ。

(檢病的調査ニ依リ發見シタル呼吸器傳染病ハ猩紅熱一三、「チフテリア」八、計二一名アリ右ハ第九節ノ記録ニハ之ヲ省略ス)

是等傳染病ヲ發見シタル警察官吏ニ對シテハ獎勵上警察賞與規則ニ據リテ賞與ヲ爲セリ、其ノ賞金授與件數(呼吸器系傳染病發見ノモノヲ含ム)左ノ如シ。

昭和八年	百八十五件
同 九年	百九十八件
同 十年	二百一十件
同 十一年	百八十件
同 十二年	百二十八件(賞詞ニ止メタルモノ二百七件)

三、死體檢案

前項ノ檢病的戸口調査ハ常時ニ於テハ、傳染病ノ届出ヲ徒ニ往再スルモノ或ハ隱蔽治療ヲ行ヘルモノ等ヲ摘發シテ以テ一般ノ届出ヲ刺戟促進スルヲ目的トセリ、然ルニ猶且誤認或ハ隱蔽ノ儘終結スルモノモ尠シトセザルヲ以テ、當廳ニ於テハ一般死亡者ニ對シ埋火葬認可證下付ノ際死體ノ所在病

一五一

名其ノ他ヲ區町村ヨリ警察署ニ通報セシメ、警察署ハ狀況ヲ考察シ必要ト認メタル場合ニハ直ニ防疫警察署ヲ現場ニ派シテ死體檢案ヲ施行シ或ハ檢査材料ヲ採取シテ細菌檢査ヲ行ヒ居レリ、其ノ成績左表ノ如ク相當多數ノ赤痢患者ヲ發見シツ、アルコトハ特ニ注目セラル、所ナリ。

◎死體檢案成績表

年次	死亡總數	死體檢案施行數	傳染病發見數		
			赤痢	腸チフス	其他計
昭和八年	八三、一五五	五、五七〇	九八	二	二七
同 九年	八二、二三二	五、二四一	一〇九	一	一九
同 十年	八〇、二〇〇	四、六一八	九七	二	二二
同 十一年	八三、四九八	四、二五三	九六	二	一
同 十二年	八五、四九七	四、四五六	一〇八	二	一〇

備考 死亡總數中ニハ既ニ傳染病ト決定シタルモノ並島嶼ニ於ケル死亡數ヲ含マス

四、膽汁培養基ノ利用

「アンブール」入膽汁培養基ヲ常ニ警察署ニ保管シ置キ、別ニ内科小兒科等ノ開業醫家ニモ弘ク之ヲ配付シ、細菌檢査所ニ係員ヲ置キテ醫師ノ要求ニ應ジテ集配ヲ爲ス等極力其ノ利用獎勵ニ努メタル結果、近年ハ當廳製ノ培養基ノミナラズ諸病院及他ノ檢査所等ニ於テモ亦之ニ倣フノ風起リ、注意

患者ヨリ採血シテ之ヲ膽汁培養ニ附シ以テ診斷ヲ確定シタルモノ實ニ發生總患者ノ四〇%ニ及ブ狀勢ヲ呈セリ。

左表ハ當廳細菌檢査所ニ於テ檢査ヲ行ヒタルモノト、當廳配付ノ「アンブール」入培養基ヲ他ノ檢査所及病院ニ於テ利用シ其ノ結果ヲ報告シ來レルモノトノ合算成績ニシテ、該表以外ニ猶當廳製造ノ培養基及病院其ノ他ノ自主的ニ作ラレタル培養基モ相當多數利用セラレツ、アリ。

◎膽汁培養基利用成績表

年次	腸チフス及「バチルス」患者總數	膽汁培養基ヲ供給シタル數	利用セラレタル數	陽性數	利用數對
					陽性百分比
昭和八年	三、七七二	五、〇〇五	四、一九八	一、〇五六	二五・一五
同 九年	三、二七〇	五、五八〇	四、四七一	九三三	一九・六八
同 十年	二、七八〇	四、八六三	四、一四二	七二〇	一七・三八
同 十一年	二、五七六	四、六一四	三、六一二	五二一	一四・四二
同 十二年	二、六一五	四、四八七	三、五八四	六四六	一八・〇二

備考 一、本表ニハ島嶼及水上ニ於ケル患者數ヲ含マズ  
二、本表ノ數ハ當廳ニ於テ製造配付シタル培養基ノミニ付テ調査シタルニ依リ腸チフス統計第八表ト符合セズ

五、野菜及牡蠣ノ取扱改善

(イ) 野菜ニ就テ

一五四

市内ニ消費スル野菜中葉菜類ハ、消化器傳染病ノ媒介ヲ爲ス場合甚ダ多カルベキコトニ就テハ異論ノ無キ處ナリ、之ガ危害防止ニ就テハ豫テ「クロール」消毒ヲ勸奨スルノ外曩ニ大正十四、五年ノ頃管下ノ野菜生産農家ニ對シ一齊ニ築造セシメタル洗場ヲ利用シテ清洗シタル後市場ニ搬出スルヤウ督勵シ來レルモ、都市膨脹ノ爲ニ今ヤ此等耕地ノ大部分ハ既ニ市街地ニ變化シテ管下消費ノ蔬菜ハ殆ド悉クヲ隣縣ヨリ移入スルニ至レリ、而シテ隣縣産地ノ洗滌其ノ他ノ取扱狀況ヲ見ルニ何レモ非衛生ノ域ヲ脱セズ赤痢等ノ豫防上洵ニ寒心ニ堪ヘザルモノアルニ鑑ミ之ガ改善ヲ企圖シ、本年六月二十四日警視廳會議室ニ、内務省防疫官、神奈川、埼玉、千葉、茨城各縣ノ衛生、農林兩課長、東京府ノ衛生、農林兩課長、東京市保健、産業兩局長及主務課長等ノ出席ヲ仰ギ、當廳ヨリ主務部長及課長臨席ノ下ニ、

(1)野菜施肥ノ改善、(2)洗場ノ築造、(3)流水洗滌ノ場合ノ應急策等ニ關シ具體案ヲ示シテ協議會ヲ開キ、各縣ニ於テモ極力實行セラレタキ旨ヲ要請セリ、右附議事項ニ關シテハ先ヅ隗ヨリ始メテ其ノ徹底ヲ期スベク管下ニ左ノ指示ヲ爲スト共ニ關係官廳ニ之ガ支持方ヲ要請セリ。

(一) 東京市新市域及三多摩郡ノ警察署長ニ對シテハ、

1. 栽培上生肥ヲ禁ジ

2. 賣出品ノ井戸水洗滌ヲ勸奨ス。

3. 河川溝渠ニテ洗滌スルモノニハ、一定場所ヲ指定シ是ニ制札ヲ立テ、其ノ附近ニ於ケル尿尿桶等ノ不潔物ノ洗滌ヲ禁ズルコト。

4. 尿尿桶ノ洗滌場所モ成ルベク警察署ニ於テ之ヲ指定スルコト。

5. 野菜洗場ヲ築造スル向ニハ、當部ニ於テ定メタル規格ニ依ルヤウ勸奨スルコト。

6. 一般家庭ニ對シ野菜ノ「クロール」消毒ヲ指導スルコト。

(二) 舊東京市域ニ對シテハ、

1. 市場内ノ清潔保持ヲ嚴ニシ、不潔ナル土間等ニ直接蔬菜類ヲ陳列スルコトナキヤウ簞板及置臺ヲ使用セシムルコト。

2. 市場ニ搬入スル蔬菜ハ尿尿運搬車ト同積セシメザルコト。

3. 一般家庭ニ「クロール」消毒ヲ指導スルコト。

(三) 東京府及東京市産業當局ニ對シテモ、當廳ノ方針ヲ支持セラレ其ノ勵行ヲ期スルヤウ要請セリ。

右ノ會合竝ニ發牒ノ結果八王子警察署管内小宮村ノ如キハ駐在巡查及防疫監吏ノ熱誠ナル勸奨ニヨリテ、二部落ニ五十二個ノ「コンクリート」製野菜洗場ヲ築造シ、井戸水ヲ用ヒテ清洗後市場ニ

搬出スルヤウ改善シ面目ヲ一新セリ。

又埼玉縣ハ八月十三日附、茨城縣ヨリハ九月九日附ヲ以テ何レモ其ノ管下ニ前記改善趣旨ノ督勵ヲ開始シタル旨通報アリタリ。

(ロ) 牡蠣ニ就テ

管内食用牡蠣生産地ハ都市ノ膨脹ニ抑壓サレテ年々萎縮シ近年ノ産額ハ一ケ年剝身四、五千貫ニ止マレリ、此等ニ對シテハ使用水及剝身作業ノ狀況ヲ監視シ又従業員ノ豫防注射及健康視察ヲ勵行シ居レリ。

然ルニ管外ヨリ移入スル牡蠣ハ剝身ニテ年額三十萬貫以上ニ上レリ、此等牡蠣ノ原產地タル、宮城、岩手、靜岡及三重等ノ主要產地ニ於ケル、剝身作業場並貯藏所等ノ衛生設備モ近來大ニ革マレリ、然レドモ豫防注射、保菌者檢索等従業員ニ對スル施爲施設ニ就テハ、澁滯セル向モアルヤニ察セラル、ヲ以テ此點生産地縣當局ノ鞭撻ヲ切望スル次第ナリ。

昭和十二年末ヨリ十三年一月ニ亘リ牡蠣ニ由リ感染シタリト認メタル著明事例二件アリ、參考ノ爲第三節末尾ニ収録ス。

## 六、豆腐屋ノ改善

豆腐ハ惣菜用トシテ國民榮養上ノ重要食品ナルニ、家庭工業トシテ製造セラレ供食状態ノ儘取扱ハ

ル、爲ニ、其ノ使用水等ヲ介シ或ハ従業員ノ不心得ニ由リテ消化器系傳染病毒ヲ媒介スル事例アルニ鑑ミ、先年來使用井戸ノ改良及店舗設備ノ改善等ニ努メタル次第ナルガ、本年モ時々従業員ノ状態或ハ豫防注射及檢便ノ濟否等ニ就キ檢査ヲ行ヒ其ノ勵行ヲ圖リタリ。

## 七、菓子ノ取扱改善

草餅、生菓子類ノ贈答等ニ由リテ病毒ヲ散播シ腸「チフス」、赤痢等ヲ小爆發セル事例屢々アリ、又保菌者檢索ノ成績ニ徴シ菓子製造業者ハ一般民ニ比シテ毎常赤痢菌檢出率異常ニ高キ事實並其ノ業態ノ性質ニ鑑ミ、従業員ノ保菌者檢索、製造場ノ手洗装置及便所其ノ他ノ改善、販賣従業員ノ手洗ノ習慣、小賣ノ場合直接手指ヲ以テ扱ハザルコト等ニ關シテ勸説ヲ行ヒ、一面消費者ニ注意ヲ喚起セシメテ營業者ヲ刺戟シ、又鑑別力ニ乏シキ小兒ノ買喰ニ就テノ危険ヲ保護者ニ説示スル等各種ノ方法ヲ講ジ居レリ。

赤痢疫痢罹患患者ノ感染徑路調査ノ際、「アイスキャンデー」ニ因リ病毒ヲ受ケタリト認メラル、場合屢々アルニ鑑ミ、本年六、七月ノ頃「アイスキャンデー」店舗ノ状態ヲ調査シ又製品及使用方法ニ付テ細菌檢査ヲ施行シタル處、殆ド悉クガ極メテ非衛生的ニ取扱ハレ、材料及製品中ヨリモ多數ノ細菌或ハ大腸菌ヲ檢出スル實情ニアリシヲ以テ、該業者組合ヲ懲懲シテ、之ガ改善ヲ圖ルト共ニ従業員ニ對スル保菌者檢索ヲ勵行シ其ノ危害ノ防止ニ努メタリ。

右檢索ニ於テハ千百二十四店舗従業員及家族五千八百三十一人中ヨリ赤痢四、「チフス」「バラチフス」各一計六名ノ保菌者ヲ發見シタリ。

### 八、井戸ノ構造改善

昭和元年ヨリ同三年ノ間特ニ事務係員ヲ置キテ先ヅ急施ノ必要ヲ認メタル料理屋、飲食店、豆腐商、魚介商等公衆ニ直接關係ヲ有スル業者竝傳染病多發地域等ニ於ケル在來開放井戸ヲ、地盤面下深サ三米以上ヲ土壤ニテ埋ムルコトヲ要義トスル閉鎖式ニ改造セシメタリ。爾來新鑿スルモノハ原則トシテ閉鎖式ニ構造スルヤウ規定シ、爾他ノ未改良ノ開放井戸ハ附近ニ傳染病發生ノ際、其ノ他適宜ノ機會アル毎ニ之ヲ閉鎖式ニ改造スルヤウ勸奨シ居レリ、本年八月末現在ヲ以テ東京市内ニ於ケル井戸ノ現狀調査ヲ行ヒタル處、井戸總數十三萬一千九百四十三個中今尙開放式ノモノ飲用ニ萬四千九百六十五個、雜用一萬一千九百七十五個ヲ算シタリ。

支那事變ノ推移ヲ考慮シテ、右井戸ノ臺帳ヲ作製シテ所轄警察署ニ備付ケシムルト共ニ、特ニ左記事項ノ格勵ヲ期スルヤウ八月二十八日發衛防第四五三號ヲ以テ指示ヲ爲セリ。

1. 使用中ノ閉鎖式井戸ハ、成ルベク汲上能力ヲ増大セシメ置キ、萬一ノ場合ノ際近隣ニ利用可能ノ状態ニ爲シ、
  2. 雜用開放井戸ニシテ、飲用ニ供シ得ル見込ノモノハ閉鎖式井戸ニ改造セシメ、
  3. 現在使用シ居ラザル開放井戸ニシテ、改造ニ依リ使用シ得ル見込ノモノハ此際浚渫シ、晒粉消毒ヲ行ヒ破損部ヲ修復スルコト、
  4. 開放井戸ノ使用者ニ晒粉消毒ノ實習ヲ爲サシム。
- 本年ニ於ケル井戸改良數左ノ如シ

◎井戸改良成績表

年次	改良個數	改良費
自昭和元年至同八年	五一、八七二	三、五〇一、四六一
昭和九年	二、五九九	七七、六二一
同十年	七九一	二八、二三五
同十一年	九一六	三二、六四五
同十二年	四八八	一八、六九四
計	五六、六六六	三、六五八、六六一

本表ノ外改良獎勵開始以前ニ在リシ閉鎖井戸約二萬七千個アリ

### 九、上水道ニ對スル措置

上水道水源ニ對スル防疫上ノ保全ニ關シテハ豫テ配慮中ナリシガ、今次支那事變ノ勃發ニ由リ其ノ



推移ヲ考慮シテ特別ニ警戒ノ必要ヲ認め、七月十五日各水道管理者並關係警察署長ニ指示シテ原水及施設物件ノ保全警戒特ニ不逞ノ徒ニ乗ゼラル、餘地ナカラシムルヤウ監視シ又鹽素滅菌ヲ勵行セシメ、一方直接職員ヲ派遣シテ淨水給水設備ノ實狀ヲ詳細調査セシメタル處、給水設備中ニ諸種ノ大ナル缺點アリ、又細菌検査ノ結果ニ於テモ甚ダ憂慮ニ堪ヘザル不良成績ヲ見タルニ由リ主務省ヲ初メ東京府等ノ監督關係廳ニ意見具陳及協議ヲ行ヒ水道設備ヲ着々改善セシムルト共ニ監視取締上ニモ一大刷新ヲ加ヘタリ、折柄福岡縣大牟田市ニ發生シタル上水道媒介ニ因ル一舉二萬二千名ノ赤痢爆發例ヲ股鑑トシテ更ニ警戒力ヲ倍徒シ〇・二PPMノ鹽素滅菌ヲ勵行セシメ又従業員及淨水給水場構内居住者ニ對スル赤痢、「チフス」、「バラチフス」保菌者検査ヲ毎月勵行シ以テ過誤ナキヲ期シ居レリ。本年末迄ノ間右ニ依リ發見シタル異常者ハ赤痢保菌者十名ニ上リタリ。

十、蠅ノ驅除

赤痢其ノ他ノ傳染病豫防上驅蠅ノ緊要ナルコトニ就テハ、先年來屢々印刷物、講演等ヲ以テ民衆ニ宣傳シ、一方市町村、町會等ヲ督勵シテ之ガ實際運動ヲ行ヒ來リシガ本年モ前例ニ倣ヒテ、市區町村、及町會自ラ各戸ニ驅蠅劑撒布ヲ行ヒテ、民衆ニ範ヲ示シタルモノ多シ。又前掲ノ防疫強調週間中ノ七月二十日ヲ期シ管下一齊「蠅捕デー」ヲ催シ府民ノ防疫思想喚起ヲ圖リ自治防疫ノ實際運動ヲ行ハシメタリ、熱心ナル町會ニアリテハ其ノ後モ「臨時蠅捕デー」ヲ催シ或ハ每週驅蠅劑撒布ヲ

行ヘルモノ尠カラズ。

尙麴町警察署管内ニ於テハ、三月上旬ニ亘リ各町會毎ニ日ヲ定メテ、一齊ニ蠅蛹ノ採取ヲ行ヘリ、之ヲ實施シタル戸數千九百二十四戸ニ及ビ十二萬一千五百六十一個ノ蛹ヲ採取セリ。本年市區町村其ノ他ノ團體ニ於テ使用シタル驅蠅劑及各種消毒劑ノ消費量ハ十八瓶入二萬九千六百六十五罐ニ及ベリ、又蠅捕デーニ於ケル捕蠅數左ノ如シ。

●蠅捕デーニ於ケル捕蠅數 (臨時蠅捕デーノモノヲ合算ス)

年次	捕蠅數	備考
昭和八年	一四七、四七〇、〇二五	千五百匹ヲ一合トシテ換算セバ 九十八石三斗一升三合
同 九年	一一八、一六三、九八六	同 七十八石七斗七升六合
同 十年	一二〇、九九八、四五〇	同 八十石六斗六升五合
同 十一年	一一三、六二二、六一二	同 七十五石七斗四升八合
同 十二年	一〇三、〇二八、七三三	同 六十八石六斗八升六合

十一、庖厨改善

昭和四年以來講演會或ハ印刷物等ヲ以テ料理屋、飲食店ニ庖厨場ノ改善ヲ勸説シ、手洗、防蠅、野菜洗滌等ノ設備、残渣及魚腸骨ノ處理等ハ漸次改善セラレ、飲食物ヲ販賣スル露店業者ニ對シテモ

設備及取扱方法ノ改善ヲ促シ、又一方ニハ従業員ニ對スル保菌者檢索ノ勵行ニ努メ居レリ。然レドモ是等店舖ノ構造設備ニ付テハ衛生上根本的ニ規準ヲ定ムル必要アルニ拘ラズ、現在ノ取締規則ハ制定既ニ古クシテ實狀ニ即セザルモノアルヲ以テ、從來ノ缺陷ニ就テ研究調査ヲ行ヒ警視廳令ノ飲食物營業取締規則ニ全的改正ヲ加フベク草案中ナリ、該改正案中ニハ調理場ヲ客ノ視線内ニ入レ、便所ノ位置ヲ定メ、客用流水裝置手洗ヲ設置シ、苟モ非衛生ニ亙ル事項ニハ刷新的改正ヲ行ヒ、又警察署長必要ト認メタルトキハ從業者ニ檢便ヲ受ケシメ或ハ腐敗變質シ易キ飲食物ノ販賣品ニハ製造月日營業所名ヲ記入セシムル等消化器系傳染病豫防並中毒防止ノ見地ヨリ一大理想ヲ注入セルモノニシテ、十三年早々公布ノ豫定ナリ、蓋シ其ノ運用ニ依ツテ將來府民ノ健康保全上ニ齎ラス效果大ナルベシト期待セラル。

### 十二、便所及下水道ノ改善

東京市ノ舊市域ニ於ケル下水道改良事業ハ逐次進捗シ居レリ、而シテ下水幹線ト建築物トヲ連結スル私設下水及放流便所ノ施工ニ就テハ東京市下水課ト協力シテ地主、家主ニ對シ勸奨中ノ處支那事變ニ依リ物資統制或ハ材料價格ノ昂騰等ノ影響モアリテ普及稍滯滞ノ憾アリ。

尙麴町、神田、芝、赤坂、牛込、本郷、下谷區ノ一部、淺草、京橋區ノ大部及日本橋區ノ全部ノ地域ニハ本年一月一日以降汲取便所ノ新設ヲ禁止シ、同區域ニ於テハ昭和十七年四月一日以後ハ汲取便所ノ使用ヲ禁ズル旨昨年七月規定シタルヲ以テ此猶豫期間中ニ前述施設ノ完成ヲ期スベク銳意督勵中ナリ。

新東京市域及郡部町村等ニ對シテハ普通下水道ノ應急改良ヲ勸奨シ、又多槽式汲取便所ノ設置ニ就テモ相當勸奨ニ努メ居レリ。

### 十三、保菌者檢索

當應ニ於テハ腸チフス及赤痢豫防上ノ見地ヨリ、保菌者檢索事務取扱順序ノ内規ニ據リ、毎年年料理屋、飲食店、旅館、菓子製造業、魚介商、豆腐及煮染商等ノ特殊營業ノ從業者及家族、本病ヲ經過全治シタル者及其ノ他ノ檢便ヲ施行シ左表ノ如ク年々多數ノ保菌者ヲ發見シ居レリ。

本年ハ八月ノ候東京ニ於テ開催サレタル第七回世界教育會議ノ爲夏季間特別班ヲ編成シテ、該關係者七千二百十五名ヲ檢索シテ、赤痢保菌者八名、ゲルトネル氏菌保有者十七名ヲ發見シタルガ、次デ三十一警察署管區ノ魚商從業者八千三百六十八人ヲ檢索シテ、六名ノ赤痢保菌者ヲ發見セリ。又百貨店ノ食堂從業員等ニ就テハ自主的方法ヲ採ラシメ、自店經營ノ檢査所ニ於テ檢査セシムルカ若クハ東京市衛生試驗所ニ一定料金ヲ納入シ依託檢査ヲ行ハセタリ。

現下流行熾烈ヲ極メツ、アル赤痢豫防上ニハ、保菌者ノ分布及其ノ病毒散蔓狀況或ハ保菌者ノ發病移行狀況並菌株等ニ關スル實狀ヲ究明スル必要アリ、曩ニ昭和九年度後期日本學術振興會ノ援助ヲ

受ケテ右ニ關スル第一次調査ヲ行ヒタルガ、昭和十一年度後期ニ於テ亦同會ノ援助補助ヲ受ケタルニ依リ、防疫課長及細菌検査所長ヲ研究擔任者トシテ本年其ノ第二次調査研究ヲ行ヘリ是ガ成績ニ就テハ別途報告ヲ爲ス豫定ナリ。

●(甲)「腸チフス」「バラチフス」保菌者検索成績表

治療	全第	第	第	第	特種營業者 防疫班施行 各署施行	露店飲食物販賣者 學校、會社、工場等ノ食堂従業員 宮内省食料品納入者 患者家族及同居人 前保菌者	検査數	保菌者發見數		發見千分率	前年同期發見 千分率
								腸「チフス」	「バラチフス」		
	一	二	三	計	一、四〇七	二八、三三六 一五、八六五 一四、〇九〇 一一、〇六九 四〇	七	一	七	〇・一四	〇・二三
	八五〇	六四九	五二八	計	一〇二、四八五	一六 一 一 一 一	一〇	六	一〇	〇・三五	〇・四四
	一九	三	九	計	二九	五	三	三	三	〇・一〇	〇・〇三
	四五、三四一	二二〇、六六〇	三〇、二〇七	計	四五、三四一	二九	三	五	三	〇・三三	〇・六八
	二、〇二七	一	九	計	二、〇二七	一九	三	六	九	二八平均一三・八一平均一二・七二	一・二九
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計

退院者	第	第	第	計	其 他	合 計	當廳以外ノ検査所ニ於テ検査ヲ行ヒタルモノ 病後繼續排菌者及管外ヨリ轉入シタル保菌者	備考 一、當廳以外ノ検査所ニ於テ検査シタルモノ、中ニハ百貨店ノ食堂従業員(三越呉服店ニ屬スルモノハ同店検査室ニ於テ毎月一回行フ、一〇、三五一人保菌者ナシ)及料理飲食店組合ニ料金ヲ負擔セシメテ検査シタルモノ、二、四八一人保菌者一名等ヲ含ム 二、病後繼續排菌者及管外ヨリ轉入シタル保菌者中ニハ轉入者三名アリ 三、特種營業者トハ旅館、料理屋、飲食店、菓子製造業、豆腐商、魚介商及煮メ商等ヲ云フ	
									發見千分率
	一	二	三	計	他	計	三〇、二〇七	〇・一〇	〇・〇三
	八五〇	六四九	五二八	計	二、〇二七	二九	三	〇・三三	〇・六八
	一九	三	九	計	二、〇二七	一九	三	〇・一〇	〇・〇三
	四五、三四一	二二〇、六六〇	三〇、二〇七	計	四五、三四一	二九	三	〇・三三	〇・六八
	二、〇二七	一	九	計	二、〇二七	一九	三	〇・一〇	〇・〇三
	計	計	計	計	計	計	計	計	計

●(乙) 赤痢保菌者検索成績表

特種營業者 防疫班施行 各署施行	検査數	保菌者發見數	發見千分率	前年同期發見 千分率
防疫班施行	一、四〇七	一	一・八〇	二・九二
各署施行	一〇二、四三一	一八七	一・八〇	二・二三

病後繼續排菌者	合 計	其 他	全 治 退 院 者			前 保 菌 者	露 店 飲 食 物 販 賣 者	學 校、會 社、工 場 等 食 堂 從 業 員	官 內 省 食 料 品 納 入 者	患 者 家 族 及 同 居 人
			第 一 回	第 二 回	第 三 回					
當 廳 以 外 の 檢 査 所 に 於 て 檢 査 行 へ ば 計 三〇、二〇七	三〇九、三一	四八、五三五	一七、一二一	二、一〇七	六、二〇七	八、八〇七	二八、三三〇	一五、八六〇	一四、〇八九	八〇、七七〇
病後繼續排菌者	二〇	五五	四七六平均	五七	一五〇	二六九	五一	二二	二一	六八九
	一九	一・五二六	二七・八〇	二七・〇五	二四・一七	三〇・五四	一・八〇	一・四五	一・四九	三一・二五
	〇・六三	四・九三	一・一三	二七・〇五	二四・一七	三〇・五四	一・八〇	一・四五	一・四九	三一・二五
	〇・三一	六・四七	二・九〇	三九・九〇	三九・九七	五二・〇四	二・二一	一・六四	〇・八二	一〇・〇七
			四六・一九							五二・九四

備考 甲表ノ備考参照

### 十四、腸「チフス」豫防注射

東京市内一般市民ニ對シテハ主トシテ東京市製造ノ「ワクチン」ヲ充テ、工場其ノ他ノ集團生活者並郡部ノ一般民ニ對シテハ當廳ニ於テ「ワクチン」ヲ製造シ之ヲ各主體ニ供給シテ豫防注射ヲ實施セシメ居レリ、本施設ハ幸ニ一般民ノ理解ヲ得テ第一表ノ如ク昭和三年頃ヨリ年々人口ノ約三〇%ニ普及スルニ至レリ、蓋シ常在各傳染病ハ近年競テ患者増發ノ趨勢ヲ呈セルニ單リ「チフス」ノミガ小康ヲ維持セル一半ノ理由ハ本施設ノ效果ニアルコトヲ信ズルモノナリ。

然ルニ町會ノ年中行事トシテ施行シ來レル本豫防注射モ本病流行ノ頽勢状態ニ馴レテ民衆漸次關心ヲ失ヒ、注射施行主體ノ幹部亦熱意ヲ缺キ或ハ煩勞、疼痛ヲ厭ヒ、替フルニ内服「ワクチン」ヲ以テセントスル傾向モ亦アリテ、從來ノ豫防施設中ノ主要事項タリシ本施設ガ近年動モスレバ等閑視サル、傾アルヲ以テ之ヲ戒飭シ居レリ、又八王子市及多摩三郡ニ對シテハ流行ノ狀況ニ應ジ腸「チフス」「バラチフス」混合「ワクチン」ヲ支給シテ專ラ勸奨ニ努メタリ、同方面ハ従前屢々「バラチフス」ノ流行アリタルトコロナルガ近年鎮靜ヲ見ツ、アルハ本施設ノ效驗ナルベシ。

本年管内ニ發生シタル腸「チフス」患者二千三百一名ニ就テ所轄警察署ニ於テ調査ヲ行ヒ、發病前一ケ年内ニ豫防注射ヲ受ケタルコトアリトノ(注射後二週以内ノ發病者ハ除ク)報告ヲ爲セルモノ六十三名ヲ算シ、此ノ内七名ハ死亡轉歸ヲ爲セリ。

●第一表 腸「チフス」豫防注射施行人員表

年次	區分	注射人員			人口ニ對スル注射人員百分比
		完了者	中斷者	計	
昭和八年	年	一、三七一、五三一	三〇六、四四五	一、六七七、九七六	二八・四四
同 九 年	年	一、六七〇、八三一	三一、五九四	一、九八二、四二五	三二・五二
同 十 年	年	一、六七六、一三一	三〇〇、四九三	一、九七六、六二四	三一・三二
同 十 一 年	年	一、六八四、一四四	二四五、六八八	一、九二九、八三二	二九・六五
同 十 二 年	年	一、七六五、一一七	二五〇、一一一	二、〇一五、二二八	三〇・三二

●第二表 腸「チフス」發病前一ケ年以内ニ豫防注射ヲ受ケタルコトアル者ノ調

年次	區分	豫防注射施行人員	發生腸「チフス」患者總數	注射後罹患者	同上中死亡者
同 九 年	年	一、九八二、四二五	二、七一〇	一一四	一四
同 十 年	年	一、九七六、六二四	二、四〇三	一〇〇	一二
同 十 一 年	年	一、九二九、八三二	二、一九七	六九	一三
同 十 二 年	年	二、〇一五、二二八	二、三〇一	六三	七

備考 豫防注射施行後十四日以内及一年以上ヲ經過シテ發病シタル者ハ「注射後罹患者」欄ニ計上セズ

十五、赤痢内服「ワクチン」ノ應用

當應ニ於テハ赤痢疫痢豫防對策ノ一トシテ、去ル昭和五年ニ「豫防内服薬」ヲ創製シテ試用シ、昭和七年ヨリ管下三歳乃至七歳ノ全兒童ニ洽ク之ヲ頒布スルコト、セリ、本年モ豫メ警察署ヲシテ各自治團體等ニ就テ實費ヲ辨償シテ本豫防薬ノ配給ヲ希望スル者ヲ調査セシメテ其ノ所要數ヲ決定シ、當應細菌検査所ニ於テ十三萬人分(一人分ニハ異型Ⅰ及同Ⅱ菌各四〇)ノ菌培養ヲ行ヒ、其ノ他ハ傳染病研究所及北里研究所ニ菌ノ培養ヲ委託シ之ヲ一人分三個ノ錠劑ニ製劑シ、管下一齊ニ配給服用セシメタリ。之ガ實施成績ヲ概述スレバ左ノ如シ。

1. 配給方法

先ヅ既定經費ヲ以テ製劑シタル十三萬人分ハ無償ヲ以テ特殊地域ニ配給シ、其ノ他ハ前年ノ通一人分金十錢ノ實費ヲ徴シテ交付セリ。而シテ配布方法トシテハ統制力アル町會衛生組合等ノ團體ニハ夫レニ配布ヲ一任シ、特ニ流行濃密ナル地方及必要ヲ認メタル方面ニ於テハ兒童ノ保護者ヲ最寄小學校ニ招集シ三、四百人宛ヲ一團トシ防疫職員ヨリ服用ニ關スル注意ヲ口述シタル後町會役員ヨリ豫防薬ヲ手交スル方法ニ依リ、五月初旬開始六月上旬ニ全部ノ頒布ヲ了シタリ、其ノ人員六十九萬三千五百五十九人ヲ算シ、管下三歳乃至七歳兒童數ノ九割餘ニ及ベリ。

2. 效果ニ關スル考察



(イ) 實施對象ニ就テ

本年内服「ワクチン」服用者ノ普及率ハ前述ノ如ク、當時ノ推計目標兒童數ノ九割二分ニ及ベリ、然ルニ管下ノ住民ハ流動代謝ノ間ニ著明ナル人口増加ノ現象アリテ服用後年末迄ニ管外へ轉出シタル者、死亡シタル者或ハ交付ヲ受ケタルニ拘ラズ服用セザリシ者等ヲ差引クトキハ、服用者ハ漸次減少シ結局年末現在數トシテハ推計六十五萬六千四百人位ニ見積ラル。

一方豫防藥頒布後年末迄ノ間ニ於テ發生シタル患者ニ對シ、警察官吏又ハ防疫職員實查ノ結果豫防藥服用者ニシテ罹患シタリト認メタルモノハ第一表ノ如ク、八千百一名(服用後十四日以内ニ發力發現前ノ者ト)ヲ算シタリ。  
(病シタルモノハ免疫效見テ之ヲ除ク)

(ロ) 患者發生率ヨリ觀テ

前掲ノ年末現在數ヲ以テ服用人員ニ對スル服用後罹患率ノ萬對比ヲ概算スレバ一・二三・四一ニ該レリ。又年末現在ニ於ケル同年齡級ノ服用セザリシ人員ヲ求メ其ノ萬對比患者發生率ヲ概算セバ一五七・六四ニシテ兩者ハ一對一・三ノ割合ニシテ前年ニ比シ低下セリ。

尙此ノ發生患者ヲ年齡別ニ觀察スルニ、何レノ年齡ニ於テモ服用者ト、非服用者トノ發生率較差ハ略相類似シ、而モ前年ノ成績トモ概ネ近似シ居レリ。

●第一表 人口割合ヨリ觀タル豫防藥服用者ト非服用者トノ罹病比較

年次	目標兒童人口		罹患者數(赤痢、疫痢)		人口萬對發生率		對比
	服用者	非服用者	服用者	非服用者	服用者	非服用者	
昭和十二年(目標人口)	六六、四三	一〇三、四三	八、一〇	一、六六	一二・四	一五・六	1.3
前							
昭和十一年(右)	六四、三〇	一〇九、四〇	六、七九	一、七四	一〇・七	一八・九	1.5
同 十年(右)	六三、一七	一〇一、八三	五、六九	一、九三	九・六	一九・七	2.2
同 九年(右)	六〇、三〇	九〇、三〇	四、八九	一、六九	八・〇	一八・三	2.2
同 八年(右)	五八、三三	八三、三七	三、九三	二、八六	七・七	二〇・四	3.2
同 七年(右)	五九、八三	七三、七八	一、九六	二、三二	三・三	二五・二	3.0

備考 本調査ハ豫防藥配付後、二週間以上經過シ發病シタル(自三歳至七歳)モノヲ集計セルモノナリ

(ハ) 全發生患者數ノ動向ヨリ觀テ

上記ノ如ク目標年齡者ノ殆ド全部ニ豫防藥ヲ配給シ、相當ノ效果ヲ擧ゲ得タルニ於テハ先ヅ其ノ年齡級ノ患者數ヲ抑制シテ總患者統計上ニモ若干ノ變調ヲ現シ、何等カノ證明ヲ得ラルベシトハ一應考ヘラル、所ナリ。

本年ハ赤痢ノ病名ヲ附シタルモノ一萬二千七十五名、疫痢八千七百五十五名、同疑似症(暫視服ヲ豫防法)三千四百九十三名、合計實ニ二萬四千三百二十三名ノ多數ニ上レルガ本施設ノ目標タ

リシ三歳乃至七歳ノ罹患者ノ動向如何ヲ見ルニ、從前ハ三歳乃至七歳ノ罹患者ガ總患者ノ六五%前後ナリシニ前々年ハ六二%前年ハ六〇・〇三%ニ下リ、本年ハ五五・一八%ニ低下シ來レリ、蓋シ僅微ニ過グル感ナシトセザルモ以テ本施設ノ效果ノ一面ヲ表現セルモノナラン。

●第二表 豫防薬配付以後ノ赤痢患者發生年齡別

年 齡 別	昭 和 十 年 年		昭 和 十 一 年 年		昭 和 十 二 年 年	
	服 用 者	非 服 用 者	服 用 者	非 服 用 者	服 用 者	非 服 用 者
三 歳	一、二七〇	二、三三三	一、四七〇	二、〇一六	二、〇三三	二、四一八
四 歳	一、七四〇	二、四八八	一、四九六	二、四七九	二、〇七五	二、四一八
五 歳	一、二九九	一、〇八一	一、六八九	一、七六六	一、八六九	一、四〇二
六 歳	八八九	一、〇九二	八六〇	一、一〇〇	一、三三七	一、四〇二
七 歳	五三二	一、一五二	三三八	一、一五五	八七五	一、一八二
計	五、六七九	一、九三三	六、七六九	一、七三四	八、一〇一	一、四〇二

第三表 赤痢總患者百中三歳乃至七歳ノ毎月發生率

月 別	昭 和 十 年 年		昭 和 十 一 年 年		昭 和 十 二 年 年	
	自 三 歳 至 七 歳	二 歳 以 下 八 歳 以 上	自 三 歳 至 七 歳	二 歳 以 下 八 歳 以 上	自 三 歳 至 七 歳	二 歳 以 下 八 歳 以 上
計	三、一七歳ノ占有%	三、一七歳ノ占有%	三、一七歳ノ占有%	三、一七歳ノ占有%	三、一七歳ノ占有%	三、一七歳ノ占有%

計	昭 和 十 年 年		昭 和 十 一 年 年		昭 和 十 二 年 年	
	自 三 歳 至 七 歳	二 歳 以 下 八 歳 以 上	自 三 歳 至 七 歳	二 歳 以 下 八 歳 以 上	自 三 歳 至 七 歳	二 歳 以 下 八 歳 以 上
一 月	四〇七	四二四	三九三	四六六	三六八	三三三
二 月	三三三	二四〇	四九二	五〇四	三六六	三七三
三 月	五五〇	三〇〇	四九二	八八	六三〇	四九四
四 月	三三三	三九三	六三三	一、〇三二	六六六	五三二
五 月	九七七	五三三	八四三	五〇五	九七七	七四八
六 月	一、一五〇	五三九	一、三〇〇	一、一三七	一、三五一	二、三〇〇
七 月	一、八二六	九五〇	一、八四二	一、八六五	二、二〇〇	一、四三三
八 月	一、八六七	一、〇六六	一、三三三	二、九六四	二、二六六	一、六三三
九 月	一、四一四	七六六	一、四〇〇	三、八五五	一、八五九	一、七四六
十 月	八〇八	六七七	八九四	一、七三〇	一、四〇〇	一、三九九
十 一 月	四七八	三三三	五〇七	九二二	七五五	七七七
十 二 月	三〇七	二五八	三九三	七四三	四三三	四八七
計	一〇、五七〇	六、三六七	一一、四四五	一、九〇六	一三、四三三	一〇、九〇一

第九節 「チフテリア」及猩紅熱ノ豫防

一、豫防知識ノ普及啓發

流行季節ニ本病豫防ヲ目的トスル講演會ヲ開催シ、亦消化器系傳染病豫防ノ講習會、講演會ニモ狀